

つながりサポート事業のボランティア拡大に向けて(案)

経済的理由等により、生理用品の購入が困難な女性が生理用品や食料品の配布を通じて孤独・孤立化せず社会との絆・つながりを回復することを目的に実施しています。

女性貧困問題共有研修をしてボランティア活動へ

生理用品・食料品 配布先

- ・キラリエ草津
- ・人とくらしのサポートセンター
- ・ふれあいハウス絆
- ・ゆかい家
- ・南笠東まちづくりセンター
- ・志津まちづくりセンター

生理用品 配布先

- ・男女共同参画センター
- ・人権センター
- ・子ども家庭課
- ・生活安心課
- ・商工観光労政課
- ・健康増進課
- ・ハローワーク草津
- ・障害者福祉センター

・キラリエ草津、フェリエ、市役所のトイレ設置用

市内の小・中学校

ボランティアグループ ふくちゃん

・食品あり 生理用品パッケージ詰め 1か月20個

食品は賞味期限に近いものは、特にその旨表示する

・生理用品個包装(DV防止強化月間4月、11月のみ)

キラリエ草津だけで実施

4月 500個

11月 500個

VG. フリーダム

・食品なし 生理用品パッケージ詰め 1か月50個

・寄附BOXの飾りつけ

事業を広く広報し、経費を広く募るための募金箱を造る

フードバンク滋賀

必要なところに配達

市社協の事業へ協力していただく...

- ・市社協が押さえる会議室利用可
- ・定期的に集まっていたいただきみんなが顔を合わせ目的をもって活動していただくことでボランティアグループの活性化につなげていく



4. 草津市「つながりサポート事業」委託

1) 草津市チューリップ(花ことば:思いやり)事業

草津市「つながりサポート事業」とは

貧困・孤独・孤立により不安を抱える女性が、社会の絆・つながりを回復することができるよう、生理用品や食料品の配布を通じて、対象者を必要な相談窓口や各種サービスにつなげるとともに、民生委員等の地域の支援者につなげていく。また、連携会議や研修会を実施し支援体制の強化を図る。また、実施する上で、施策連携・公民連携・地域連携の3連携を実施して進める。

○支援体制の強化

窓口での生理用品(委託)ならびに食料品の配布(市社協事業)

公民連携・施策連携

<市内窓口配布と食料拠点との連携>

<キラリエ草津窓口拠点>(生理用品・食料品)

●市社協 (フードバンクセンター) (4F)
(ふれあいハウス絆、立ち寄りカフェゆかい家、志津・南笠東まちセン)

<生理用品配布窓口>(生理用品)

○男女共同参画センター (5F)
○人権センター (3F)

<市役所窓口拠点>(生理用品・食料品)

●人とくらしのサポートセンター (フードバンクサテライト) (2F)

<生理用品配布窓口>(生理用品)

○子ども家庭課 (保2F)
○家庭児童相談室(保3F)
○健康増進課 (2F)
○生活安心課 (1F)
○商工観光労政課 (4F)
○ハローワーク
○福祉センター

<配布物 1 回基準>

○生理用品セット

・つながりサポート事業チラシ
・相談窓口一覧表
・生理用品 2 セット(24 個入り 2 パック)

○食料品セット

・缶詰 5 個、米 500g、インスタント関連 5 袋
を紙袋に入れる

※フードバンク・緊急食糧支援で用意する。

○住民への周知・理解

施策連携・公民連携・地域連

市広報、社協くさつ、SNS 等を活用し、周知を図ります。貧困・孤独・孤立を防ぐために、身近な相談者への周知を図り、理解を広げる研修会として、市民生委員児童委員協議会(市民児協)、学区社協会長会で研修会を実施し、地域の支援体制づくりの醸成を図ります。また、地域と連携し、相談できる場所や、居場所となるような拠点がより身近な地域にできるよう検討を図り「助けてと言える風土」をつくります。

○生理用品配布事業等へボランティアの参画と社会的つながり

地域連携

生理用品や食品等を配布する際に、住民意識の高揚を考え、フードバンク仕分け・配達ボランティア他新たなボランティアを募集し、一緒に考え活動する仲間を増やします。また、貧困から起きる孤立・孤独を防ぐため、社会的つながりをつくるボランティア活動への参画も伝えていきます。

○関係機関との連絡会議と相談体制の整備

施策連携・公民連携

下記の 11 機関で事業の主旨について共通理解し、取り組みについて協議・連携します。

<市役所> 人とくらしのサポートセンター、子ども家庭課、家庭児童相談室、健康増進課、生活安心課、商工観光労政課、生活支援課

<キラリエ> 市社協、男女共同参画センター、人権センター

な地域で受け取れるよう、社会福祉協議会など9カ所に窓口を拡大。さらに今後は民生児童委員に、生理の問題や口に出しにくい悩みを引き出す会話術を学ぶ研修会を開き、困っている女性に直接アプローチしてもらい、継続的な支援につなげる。

配布窓口を訪れた女性の中には、

いち早く生理用品を配り始めた自治体は、より効果的な支援へと工夫を重ねている。草津市は4月中旬から配布を始め、8月に3回目をスタートした。現場で見えた課題を踏まえ、単なる配布で終わらないような支援の仕組みを整えようとする。

4月の1回目は市役所など2カ所

4月から配布の草津市

「継続」重視で工夫 窓口拡大

で配布。広報紙などで呼び掛けたところ、平日の8日間で用意した全123セット(2パック入り)が無くなった。そこで5月下旬~7月末の2回目は、男女共同参画センターで計500セットを用意。しかし配布数は79セットにとどまった。市は窓口の知名度や利便性が低かったとして、8月の3回目は身近

夫から経済的DVを受け「食べ物を買ってもらえないが、生理用品は買ってもらえない」と話す人もいたという。担当者は「生理の貧困は表に見えにくい問題。地域で支援が必要な人がいないかアンテナを立て、支援の届きにくさを解消していきたい」と話す。

(井上真央)

性を考える

生理用品必要な人に届かず

生理用品必要な人届かず

Our Voices 性を考える



県内6市町で配布

「窓口で手渡し」ハードル?

随時、各社新聞掲載

現状を把握し、地域で支え合う仕組みづくり

- Q . 草津市全体で、何人ぐらいを対象と考え、生理用品の購入は何人分みていますか。**

A . 滋賀県の「生理の貧困実態アンケート」3,682人、10代から70歳以上では、4人に1人が貧困とされています。草津市の8歳から60歳の女性人口は、43,849人ですので、1/4は、10,962人とみていますが、生理用品の購入数は、1,840人分と予備400人分を用意します。配布実績から見て、まずは十分であると判断しているが、状況を見て市民へ寄付のお願いも考えていきます。
- Q . 住民への周知・啓発で、市広報、社協くさつ、SNS等と書かれていますが、その他の周知・啓発はしますか。**

A . 市社協で、ポスター、チラシを作成しますが、ポスターには、生理用品の配布窓口がわかる小さなカードも用意し、親にも相談できない子どもたちが持って帰って連絡できるように配慮をしようと考えております。
- Q . 「助けてと言える地域の風土をつくる」とありますが、周知・啓発以外にどのような方法を考えていますか。**

A . 風土づくりは、住民皆様の心づくりですので、直ぐにできるものでないと考えています。しかし、配布窓口を増やし、いろいろな媒体で啓発し、ボランティアの参画していただきながら、いろいろな地域団体へも学習会等を実施して草津市で困っている人が困ったと言える街にしたいと考えています。
- Q . 孤立・孤独を防ぐにあたり、「社会的つながり」をつくとありますが具体的に説明をしてください。**

A . 「社会的つながり」とは、ボランティア活動・地域の福祉活動の参画・地域の役割等、社会の中でつながる関係性の構築を言いますが、特にコロナ禍で、より希薄なった人間関係が話題となっています。「社会的孤立」が進むと「感染死」だけではなく「関連死」が増えるとまで言われています。ここで、コロナ禍で仕事がなく「行き場所のない」方々に少しでも、ボランティア活動等に参画していただき「人と人の新しい出会いと関係性」の構築を図りたいと考え、ボランティア情報もお渡しし、声もかけていこうと考えています。
- Q . 相談機関の連携とは?**

A . 相談機関同士の連絡調整、配布・相談状況の確認・分析を実施し、共通認識を持つための連絡会を実施します。また、各相談所の相談員の連携強化も図り、ワンストップでいろいろな相談ができる体制を整備します。